

## 第6回秋田市マイタウン・バス南部線 雄和地域運行協議会議事要旨

開催日時 平成23年12月17日(土) 午後2時～3時40分

開催場所 雄和市民サービスセンター 洋室3、4

委員数 16名

出席委員 11名

議 事 (1) 利用状況について(報告)  
(2) 利用促進について

事務局 1 開会

2 議事

会 長 挨拶  
議事に入る。議事(1)と(2)について事務局から説明願う。

事務局 (資料に沿って説明)

会 長 質問や意見を願う。

委 員 コインバスは福祉施策だと思うが。

事務局 旧市内に比べ、コインバスがこの地域に与える影響は大きい。

委 員 この先、免許返納などによって、バスに頼らざるを得ない状況にもなってくる。

委 員 利用している人に聞くと、延伸してもらったし、時刻も使いやすいという。一方で、利用者が少なく、気の毒に思うという意見もある。  
この協議会そのものを、老人や利用者の意見を聞けるような会に改めるべきではないか。アンケートが全てではないが、今利用している人、これから利用する人の意見は取り入れるべき。我々も自治会の代表でこの会に参加しているが、利用者の会議にしたほうが地域に浸透していくのではないか。  
お恥ずかしいが、利用した事のない我々が参加していてよいものかとも感じる。

- 委員 日赤病院まで延伸してもらって助かっているという意見も確かにある。
- 委員 独り暮らしの知人は、月に1回程市の中心部に行くようだが、マイタウン・バスと電車を乗り継いで行っていて、前の時刻よりは使いやすくなったとも言っていた。  
ただし、家族に頼れる人であれば、バスには乗らないと思う。他に頼れる人がいなければ、バスを利用するしかないので、乗っているのでは。
- 委員 御所野や日赤病院に行けるようになったのは良いことだ。ただ、近所の人の方が前よりもバスに乗らなくなった。実績から見ても、去年より減っているようだし、高齢化が進んで色々な意味で元気がなくなっているのかなと感じる。近所の70歳以上のおばあさん達を誘って、イオンモールに行くような企画をしたいと思っている。そうすればもっと浸透すると思う。  
バスが便利になったのに、利用者が増えていない。
- 会長 利用者を増やすか、バスの便数を減らすかという問題になってくる。  
先日のさきがけ新聞に、来年の3月から横手市で高齢者向けのデマンド交通の実証実験をするという記事が載っていた。最終的には、こういう形態になるのかなと考えている。
- 委員 その話はまだ早い。確かに少子高齢化によって、利用者が減るかもしれないが、ほとんど乗ってない便の時刻を見直すなど、今の現状からいろいろな方法を探るべきだ。
- 委員 利用者がバス時間に合わせる、という気持ちも必要なのではないか。  
全員の思いどおりにはならない。
- 委員 雄和市民サービスセンターを乗り継ぎ場所として、センター以南はマイタウン・バス、センター以北は路線バスとはできないのか。そうすれば、効率もよくなる。
- 委員 マイタウン・バス単独で見れば、路線延伸後の利用者は減っているが、路線バスの利用者と合わせれば、延伸前と大差はない。バスを利用する人自体は変わっておらず、10月からのコインバス事業で利用者は増えている。  
ただし、1人平均600～700円かかるところを100円で乗っているので、運送収入は増えてこない。マイタウン・バスを活性化するためにどうしたらよいか考えてほしい。
- 委員 100円で乗れることで、利用する回数は増えるのでは。

- 委員 スクールバスとの問題もある。市の財政をおさえるためにも、どちらかに一本化したほうがよいと思う。  
実際、中学校に通う川添方面の生徒は、スクールバスがないため自費でマイタウン・バスを利用するなど、不公平感がある。
- 委員 旧大正寺中学校学区の生徒は乗せて、人員に余裕があっても、経由してくる戸米川地区の生徒は乗せない。
- 委員 予約式の状況はどうか。
- 委員 最初は電話予約が面倒なのか、利用がなかったが、少しずつだが利用してもらっている。河辺のBコースでは、だいぶ浸透してきたと感じている。予約の方法もなるべく簡単にできるように配慮している。
- 委員 延伸や予約など、やっと浸透してきたところで、また見直すとなれば利用者も混乱する。ある程度の期間をおくべきだ。
- 委員 ここまで難儀して作ってきたものを、すぐに変えてはまた同じ事の繰り返しになる。地域に浸透させる方法を考えるべき。
- 委員 バスの車体に「ふるさと温泉行き」と記してはどうか。
- 委員 コインバスのおかげで、温泉の利用者は増えるのではないか。
- 委員 10月から増えているのは確か。
- 委員 御所野や四ツ小屋からも100円で温泉へ行けるのであれば、旧市内からの利用者は増えるのではないか。
- 委員 確かに、ユージュルの時は旧市内からの利用者は多かった。
- 委員 時刻については、実際に利用する人の声を聞きながら、見直すところは見直すようにすればよい。
- 委員 先ほども話したが、この協議会の今後の見通しはどうか。やはり、利用者に重点を置いた会にすべきではないか。
- 事務局 利用者の代表ということで、一般募集したが、9名の応募しかなかった。
- 委員 自治会から推薦することもできる。

事務局	利用者だけにしてしまうと、自分の目線でしか見られない。包括的に見ることが出来る人も委員として必要なのではないか。
会長	利用促進については、少し様子を見ながら、また、利用者の意見などを聞きながら、今後も引き続き検討していく。
委員	マイタウン・バスの車体に宣伝（公告）はできないか。
事務局	手を上げる方がいれば、可能である。
委員	路線バスでもやっているのだから、マイタウン・バスでも可能となれば、地元企業でも手をあげる所があるかもしれない。ダリア園など、季節限定でやってもよいと思う。商工会の代表として言わせてもらえば、雄和地域にはダリア園や神ヶ村の栗、竹ノ花公園のぶどう狩り、種沢のりんご園など、季節によってイベントもある。それを地域外にPRして、バスに乗って来てもらうというのも一つの方法だと思う。
委員	市としても、地域内の利用者を増やすこと、コインバスの未利用者の促進などはもちろんだが、地域外からの利用も考えていきたい。例えば、地域の人にとっては当たり前でも、旧市内の人が見れば感動するような景色なそれをHPなどで紹介するとか、地域外からも利用するようなきっかけ作りをしていきたい。
委員	委員は、小・中学校、高校に通う子を持つ親や、退職した人でバスを利用したい人など、幅広い年代から募るべき。 今の高校生は、ほとんど家族が四ツ小屋駅に送迎している。それは、小学校の頃から当然のようになっているが、逆に言えば、その期間は子供を自立させるための訓練の期間でもある。高校卒業後、東京や仙台に行って、挫折する子供が多いのは、それが理由になっているのかも知れない。 子供を1人でバスに乗せる訓練だと思って、できるだけ親が送迎をしないように意識を変えることも必要。
事務局	確かにそのとおりで、この地域の問題意識が変わらなければ、利用者は増えないと考えている。
委員	この地域がもう一度元気になるためにも、このバスはなくさないように維持していかなければならない。
委員	毎日バス代を出す経済的負担もあって、通勤途中に子供を送り始めたのが、原因になっているのかもしれない。コインバスの100円とまではいかない

が、利用しやすい料金にすれば、また乗るようになるのではないか。

委員 子供を健全に育てるという意味でも、地域の特性を活かすためにも、バスを利用することを考えていかなければならない。

委員 我々も免許を返納するような時期が来れば、バスを利用することになる。近所の人がバスで通院していたが、病気のために人口透析をしなければならなくなり、経済的理由から旧市内に引っ越してしまった。今後この様なケースが増えていくかも知れない。そういう人にとって、バスは生活の糧なので、考えなくてはいけないのではないか。

会長 いろいろな貴重な意見をいただいたので、今後の参考にしてもらいたい。

－協議会終了－